

# SGML文書管理と文書情報アクセス技術

今村 誠\* 森口 修\*  
鈴木克志\* 藤井洋一\*  
高山泰博\*

## 要旨

構造化文書形式SGML (Standard Generalized Markup Language)は、電子化情報の企業間・部門間での交換や共有を目的とするCALS (Commerce At Light Speed)の標準文書形式として採用されたこともあり、近年、その利用技術が盛んに研究開発されている。SGMLのメリットは、文書内容が持つ論理の構造を業務に即して表現できる点にあり、文書のSGML化により、文書の利用目的に応じた文書情報の活用が容易になる。

本稿では、SGMLの特長を生かした文書アクセス技術により、複数の部門・企業間でのネットワークを介した情報共有が容易になることについて述べる。

## (1) SGML文書管理技術

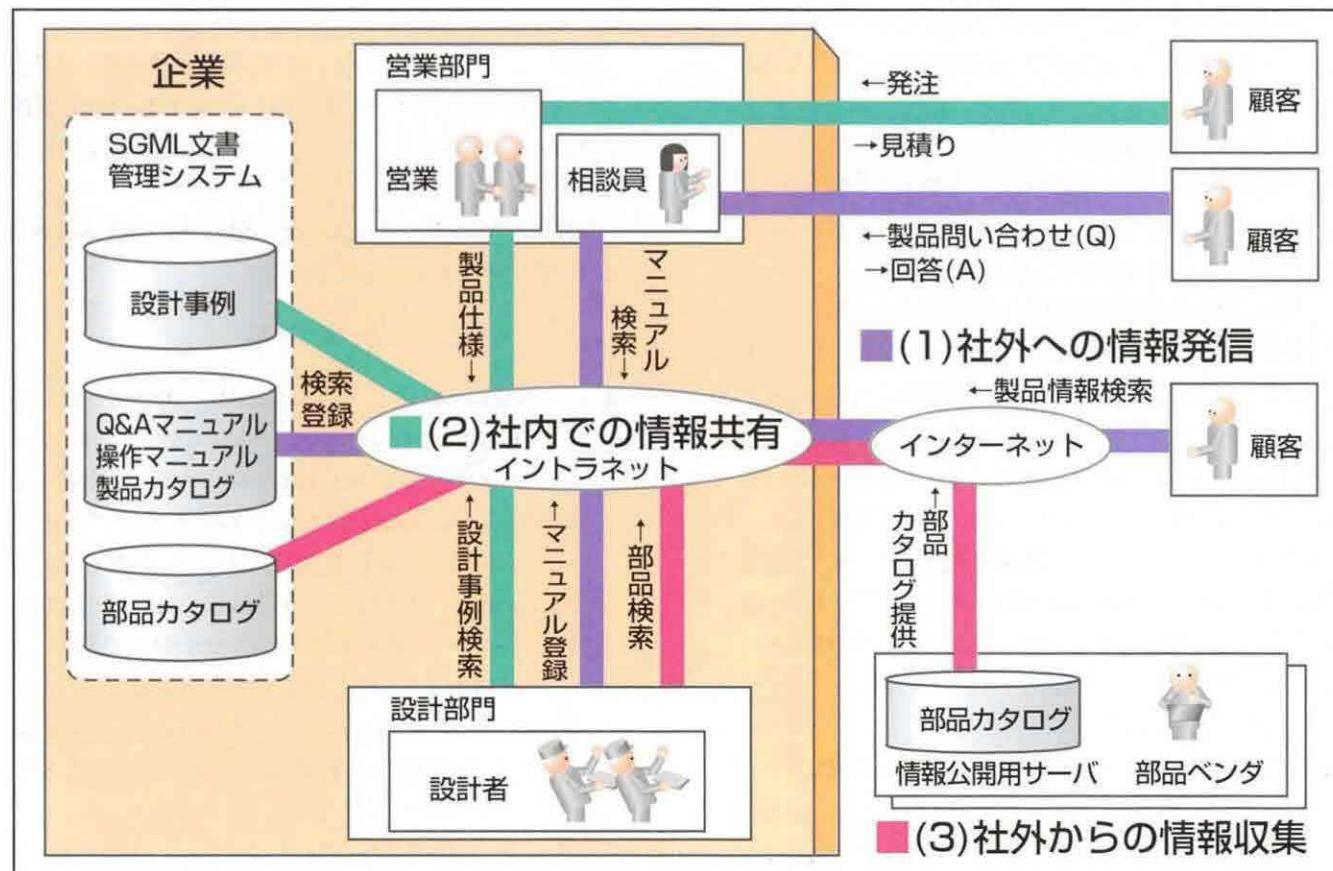
SGMLの文書構造を利用した文書管理により、対象業務に応じた文書情報アクセスが容易になる。SGML文書管理システムとWWW (World Wide Web)との連携により、ネットワークを介した文書情報の共有が容易になる。

### (2) 自然言語事例ベース検索技術

過去の設計事例をSGML化して蓄積しておき、新しい仕様文に対して、類似した文を持つ設計事例を検索することにより、設計情報を再利用して設計作業を効率化できる。

### (3) 広域検索技術

SGML文書から検索に必要な索引情報を自動抽出することにより、複数の企業によってインターネット上で公開されているSGML文書を横並びで検索できる。



## SGML文書管理による情報共有の例

企業活動に必要な社内外の文書をSGML形式で統合管理することにより、次のような文書情報の共有が容易になる。①顧客からの製品問い合わせに必要な製品情報を蓄積し、社外への製品情報サービスに利用、②設計事例を蓄積し、社内の設計部門で再利用、③インターネット上で公開されている部品カタログを収集してデータベース化し、社内での部品情報検索サービスに利用。